

青少年の体験活動の現状について

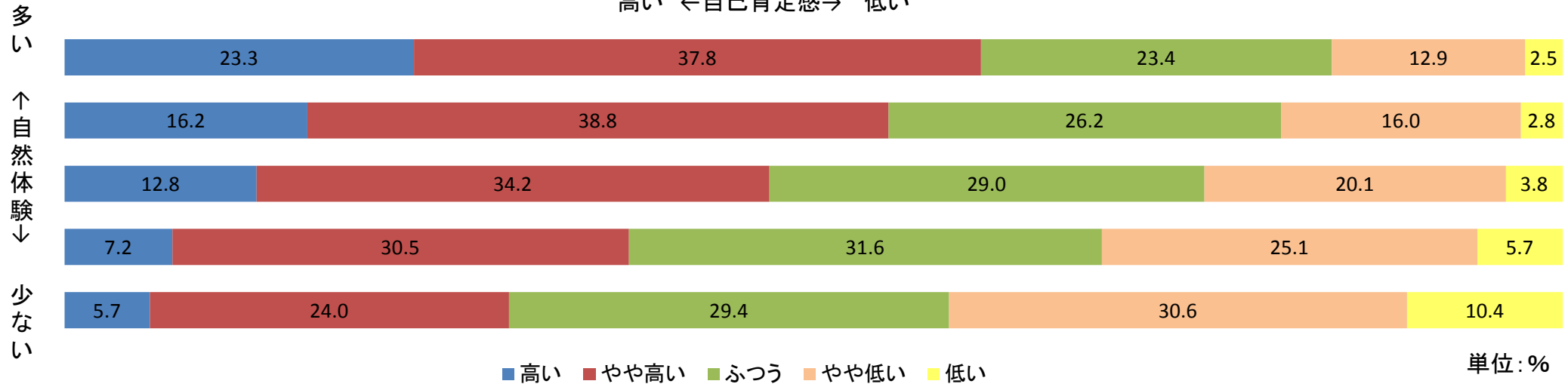
文部科学省生涯学習政策局青少年教育課

自然体験活動の効果

自然体験を多く行った者ほど、自己肯定感が高くなり、道徳観・正義感があるという傾向が見られる。

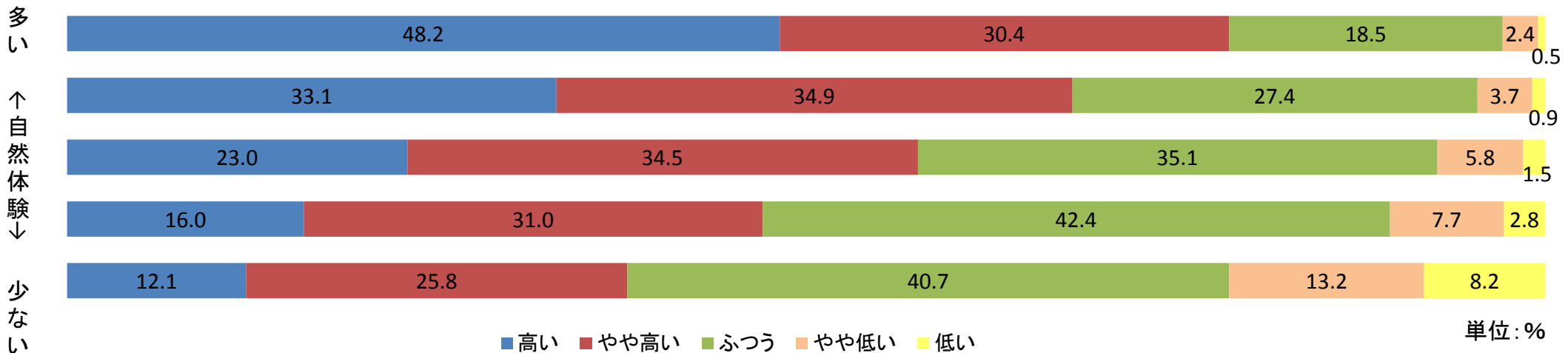
自然体験と自己肯定感の関係

高い ← 自己肯定感 → 低い



自然体験と道徳観・正義感の関係

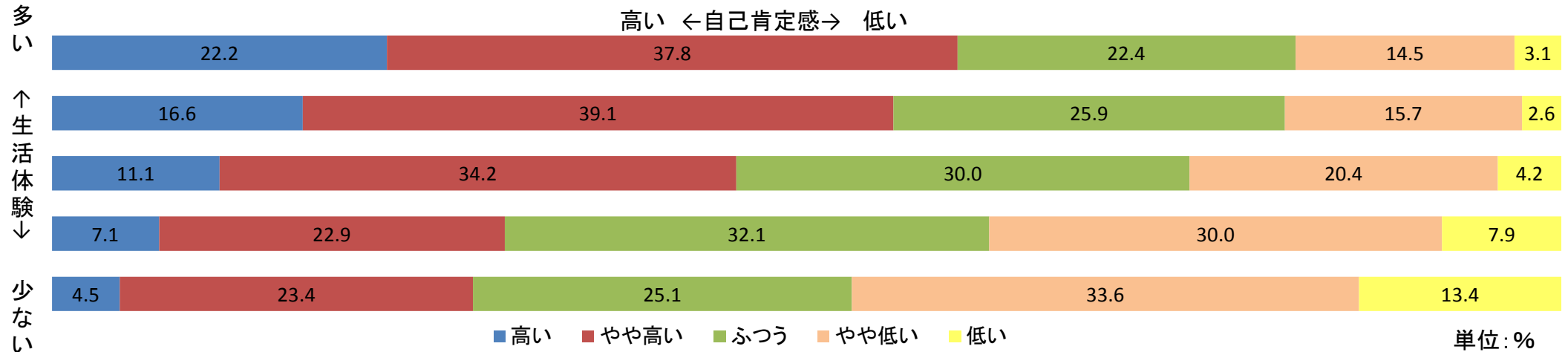
ある ← 道徳観・正義感 → ない



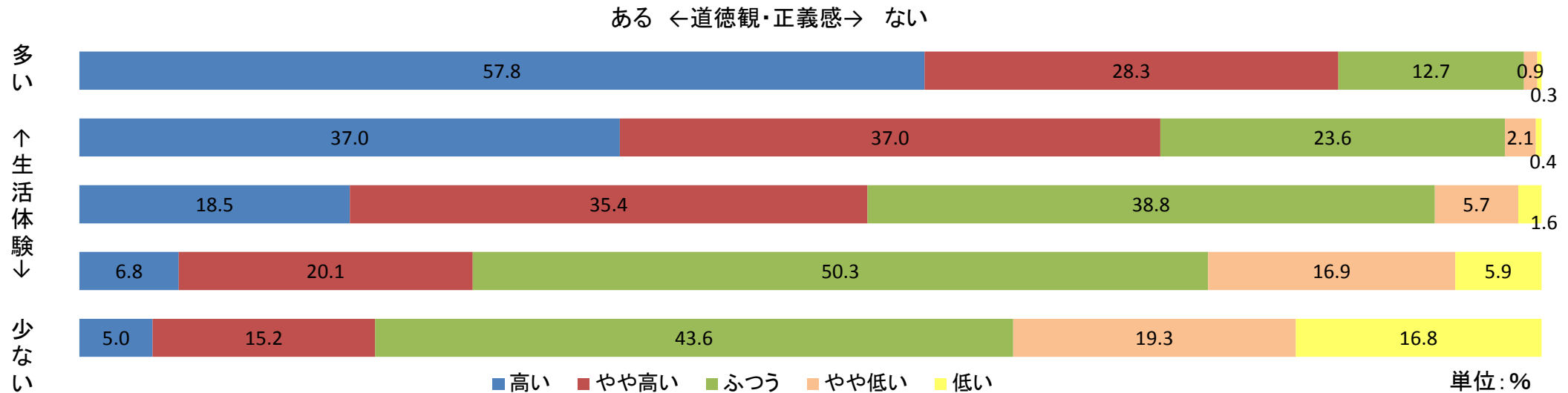
生活体験活動の効果

生活体験（刃物を使った調理、公共の場所のゴミ拾いなど）を多く行った者ほど、**自己肯定感が高くなり、道徳観・正義感がある**という傾向が見られる。

生活体験と自己肯定感の関係



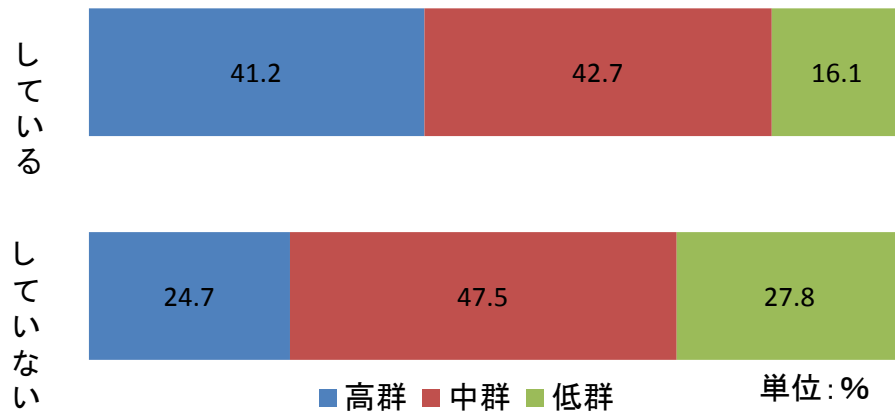
生活体験と道徳観・正義感の関係



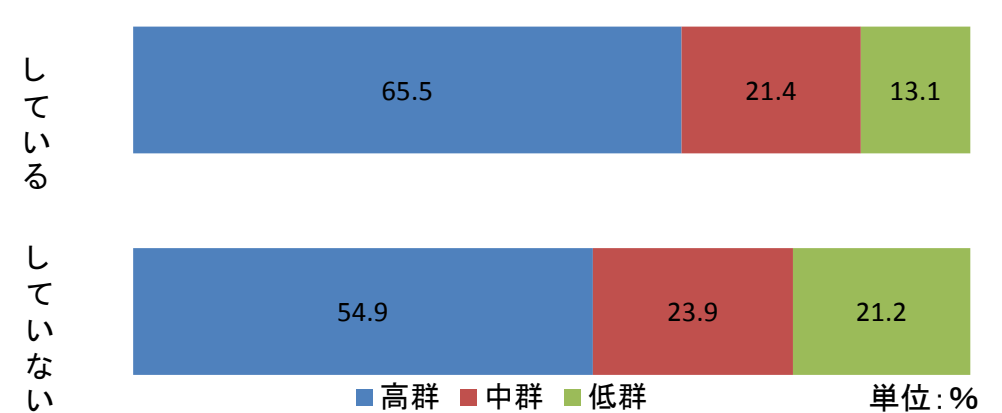
自然の中での遊びの効果

自然の中での遊びを多く行った者ほど、コミュニケーションスキル、礼儀・マナー、健康管理スキル、課題解決スキルがあるという傾向が見られる。

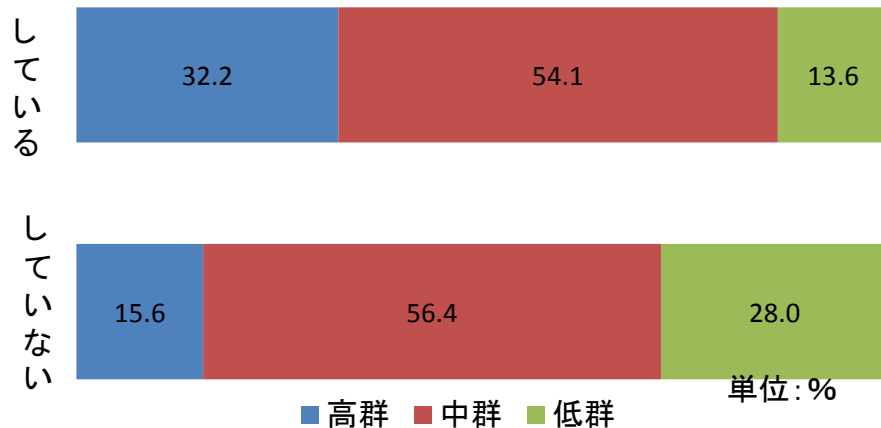
自然の中での遊びとコミュニケーションスキルの関係



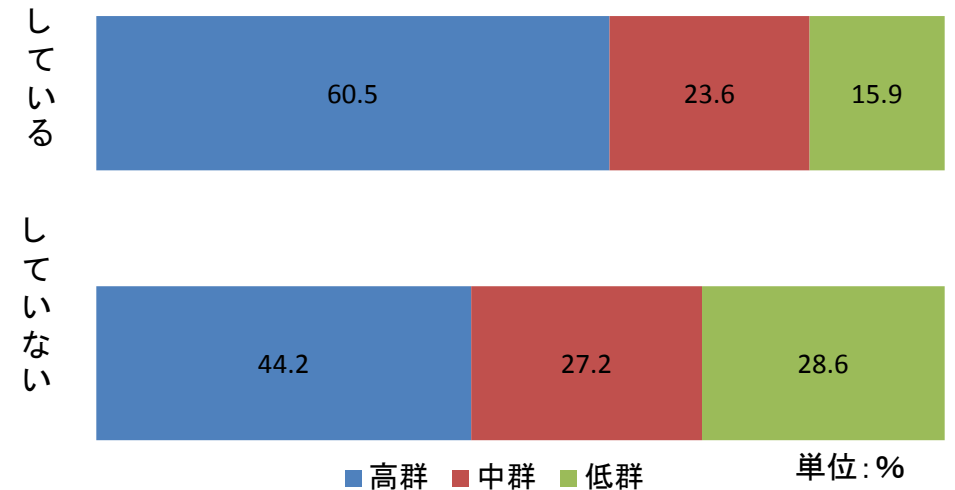
自然の中での遊びと礼儀・マナーの関係



自然の中での健康管理スキルの関係



自然の中での遊びと課題解決スキルの関係



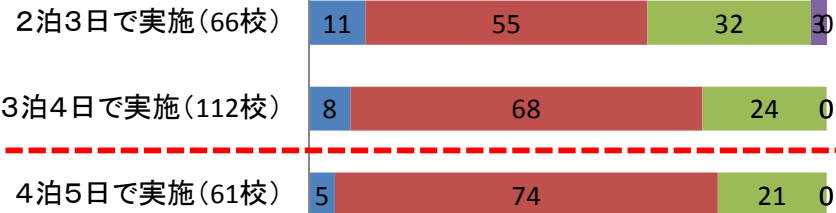
長期宿泊体験活動の効果

長期宿泊体験を行った者ほど、**優しさ・思いやり、連帯感・仲間意識、自立心、リーダーシップ**があるという傾向が見られる。

長期宿泊体験と優しさ・思いやりの関係

勉強や運動が不得意な児童を助けるなど、
優しさや思いやりの気持ちが深まった。

- 非常によく感じる
- よく感じる
- どちらともいえない
- あまり感じない
- 全く感じない

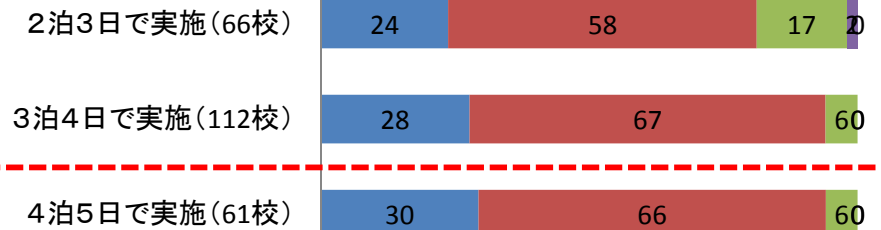


単位：%

長期宿泊体験と連帯感・仲間意識の関係

児童が互いに励まし合うなど、連帯感・仲間意識
の気持ちが深まった。

- 非常によく感じる
- よく感じる
- どちらともいえない
- あまり感じない

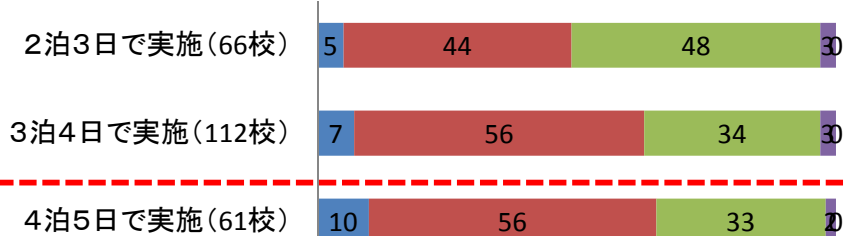


単位：%

長期宿泊体験と自立心の関係

身の回りの整理整頓など、自分のことは自分でする
姿勢が身についた。

- 非常によく感じる
- よく感じる
- どちらともいえない
- あまり感じない

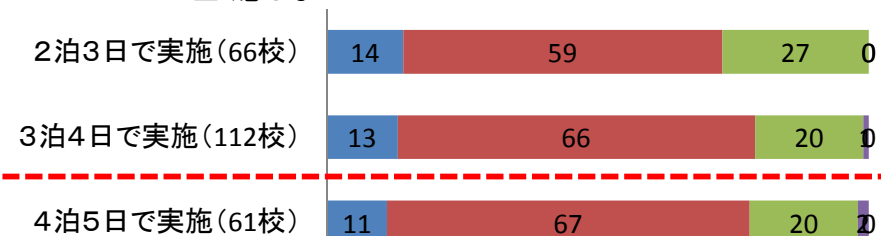


単位：%

長期宿泊体験とリーダーシップの関係

班、学級、委員会等の集団で活躍する際、
リーダーシップを取る児童が増えた。

- 非常によく感じる
- よく感じる
- どちらともいえない
- あまり感じない
- 全く感じない

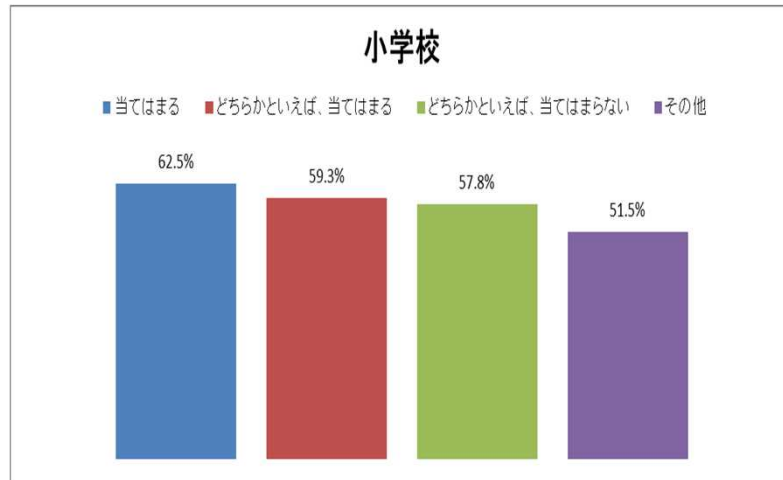


単位：%

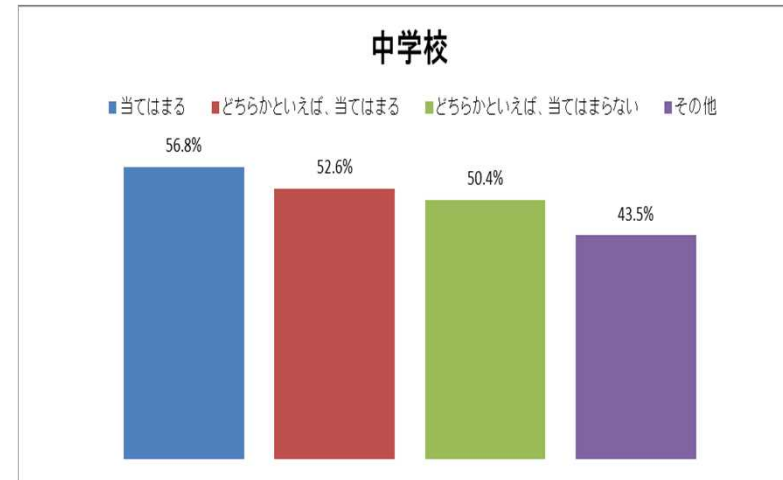
学力に及ぼす体験活動の効果

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある者ほど、理科の平均正答率が高いという傾向が見られる。

○自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか？

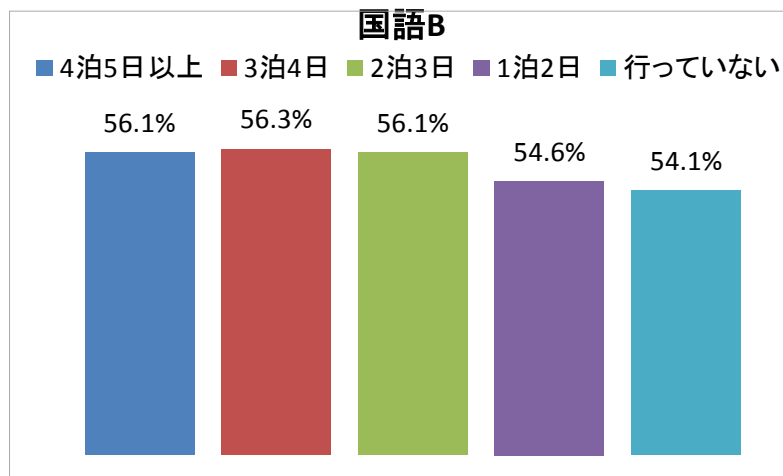


単位：%

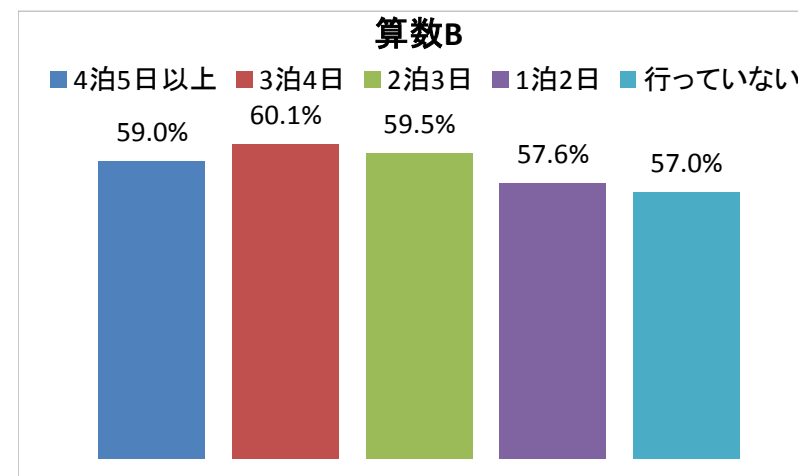


集団宿泊活動を行ったことがある者ほど、国語・算数の主に「活用」に関する問題の平均正答率が高いという傾向が見られる。

○第6学年の児童に対して、第5学年までの間に自然の中での集団宿泊活動を行いましたか？



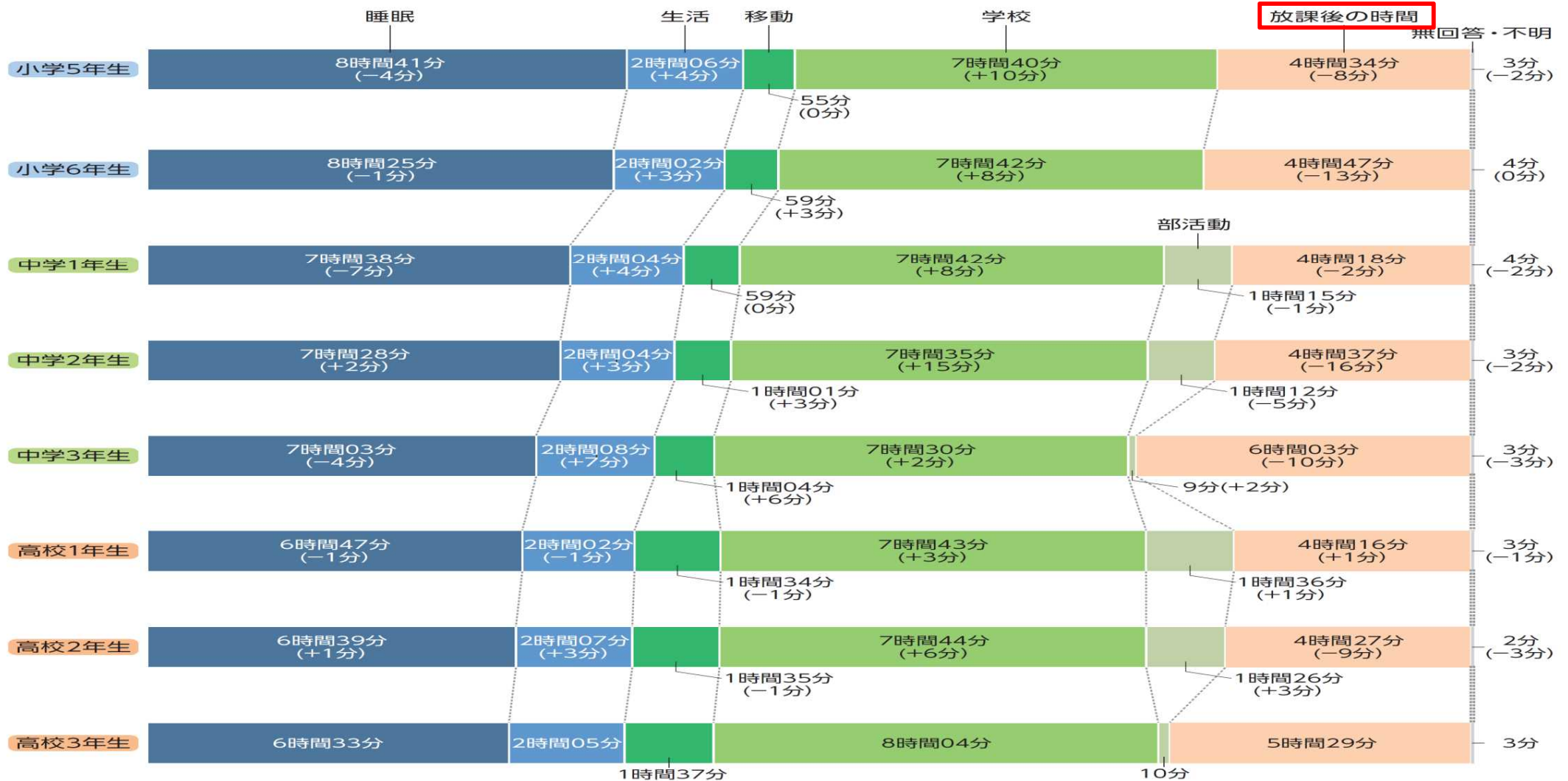
単位：%



出典)
「平成27年度全国学力・
学習状況調査」

子供たちの1日の時間の使い方(学年別)

放課後の時間は、2008年と2013年を比べると微減しているが、多くの学年で生活時間の2割程度を占めている。

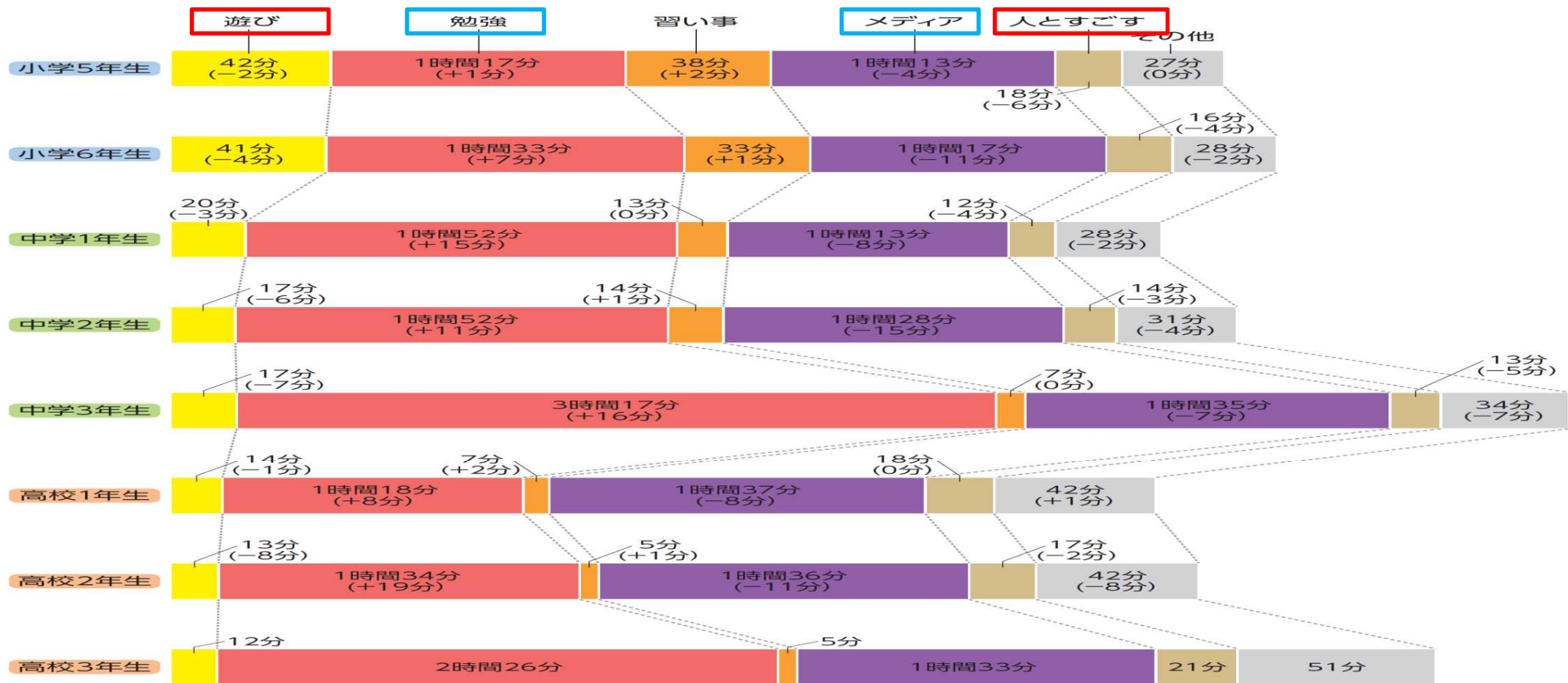


※時間数は2013年時点の平均時間を示し、括弧内は2008年時点との差を示したものを。

出典：ベネッセ教育総合研究所「第2回放課後の生活時間調査-子どもたちの24時間-ダイジェスト版」(2015年)

子供たちの放課後の使い方(学年別)

- 放課後の時間については、2008年と2013年を比べると、勉強の時間が増え、メディアの時間が減少しているが、勉強とメディアの時間で全体の半分以上を占める。
- 遊び(屋内外)の時間や人(家族、友人)と過ごす時間は全体の1~2割程度。



※時間数は2013年時点の平均時間を示し、括弧内は2008年時点との差を示したものです。

※「メディア」にはテレビ・DVD、携帯電話・スマホ・PC、音楽などを含む。

出典：ベネッセ教育総合研究所「第2回放課後の生活時間調査-子どもたちの24時間-ダイジェスト版」(2015年)

小学校における宿泊を伴う体験活動の取組状況

宿泊を伴う体験活動の中でも、**自然体験活動以外の活動を行っている学校が少ない。**
また、**3泊4日以上の活動が少ない。**

○宿泊を伴う体験活動における活動内容別の実施学校数(有効回答数:20,485校)

活動内容※1	学校数(校)	全公立小に占める割合※2
宿泊を伴う体験活動を実施した学校数 (以下の①~⑥のいずれかを実施した学校数)	19,522	93.7%
①自然に親しむ体験活動 (野外活動や動植物の観察、自然教室など)	18,310	87.9%
②ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動 (清掃活動、社会福祉施設等での活動)	1,327	6.4%
③職業観の育成、勤労意識の向上に資する活動 (農林漁業体験、工場での職場体験、インターシップなど)	2,619	12.6%
④文化・芸術体験 (伝統文化との触合い、工芸品の製作活動、伝統行事への参加など)	11,393	54.7%
⑤交流体験 (異地域、異文化、異年齢交流など)	7,165	34.4%
⑥その他(スキー教室など)	3,330	16%

※1 「活動内容」①~⑥については複数回答

※2 「全公立小に占める割合」の分母はH25学校基本調査における全国の公立の小学校数:20,836校

○「自然に親しむ体験活動」の実施学年

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
活動回数	194	201	417	3,732	22,307	8,628
割合(%)	0.5	0.6	1.2	10.5	62.9	24.3

○「自然に親しむ体験活動」における活動日数

	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
活動回数	18,971	8,306	841	937	24
割合(%)	65.2	28.6	2.9	3.2	0.1

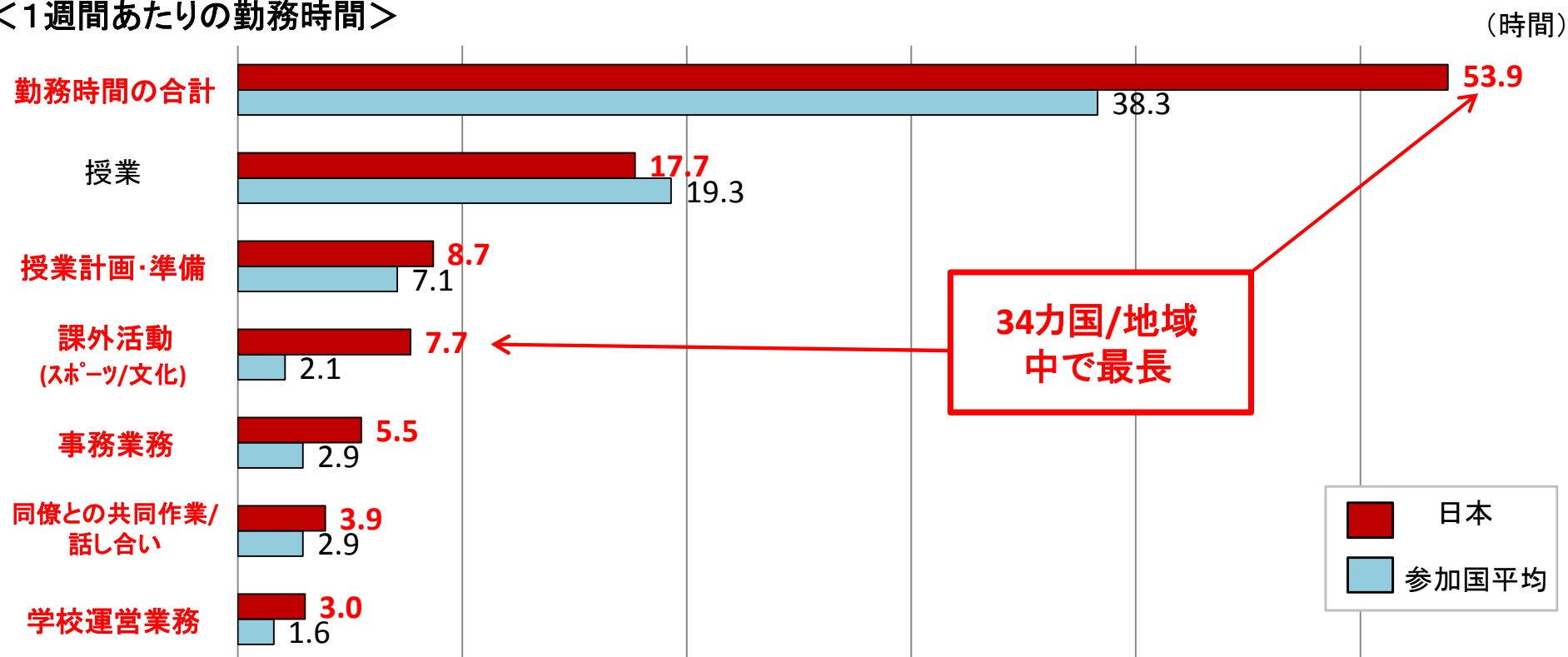
国際教員指導環境調査(TALIS)2013結果調査

○34か国・地域が参加するOECD調査

○日本は中学校約200校の校長、教員(非正規含む)を対象にアンケート調査(国公立90%、私立10%)

- 日本の教員の1週間当たりの勤務時間は最長。
- 授業時間は参加国平均と同程度であるが、課外活動(スポーツ・文化活動)の指導時間が特に長く、事務業務、授業の計画・準備時間も長い。
- 教員や支援職員等の不足を指摘する校長も多い。

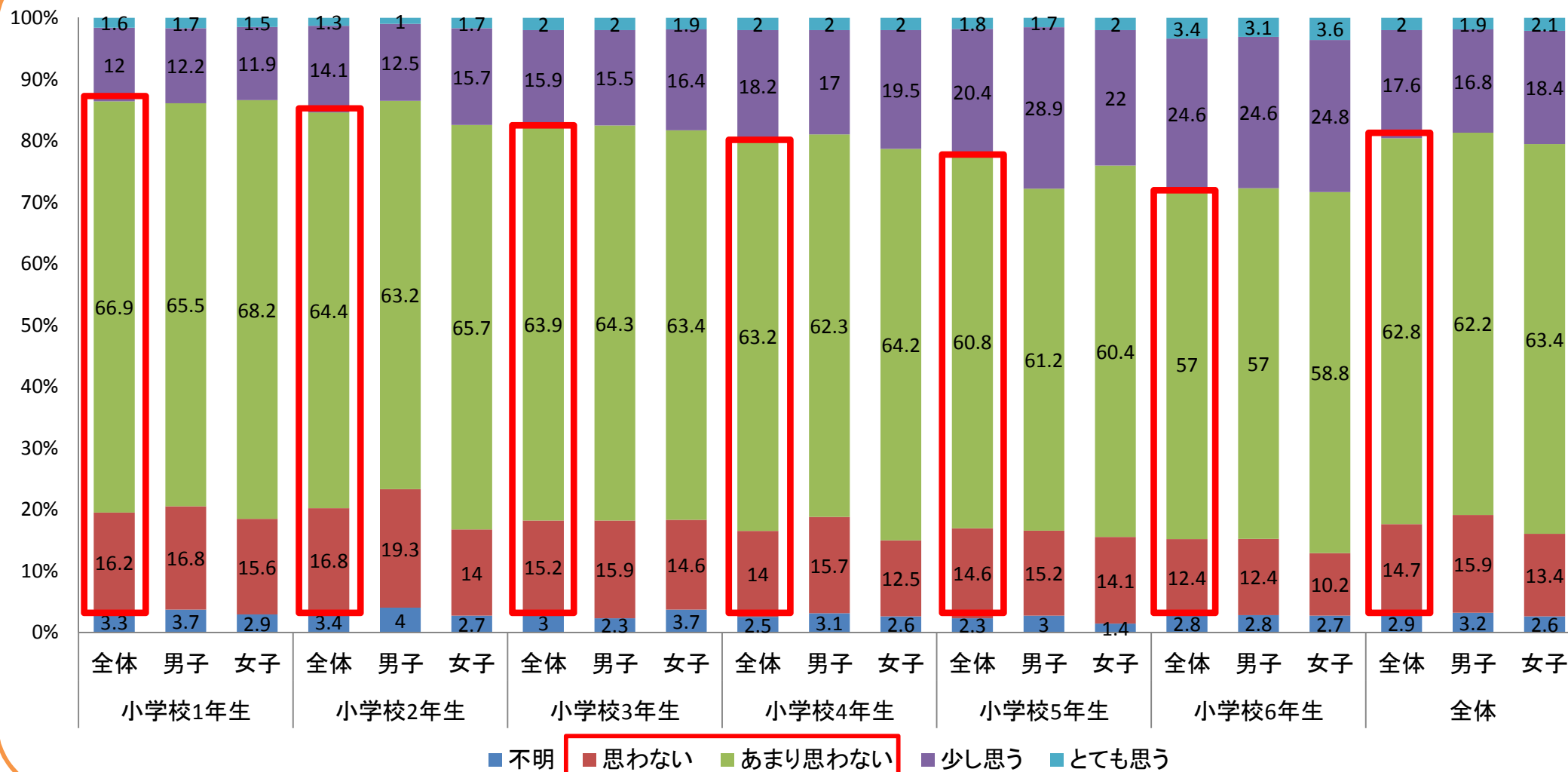
<1週間あたりの勤務時間>



体験活動に関する保護者の意識①

子供の発達段階が上がるにつれ、体験活動よりも勉強を優先させたい保護者は増えているが、全体として**8割弱の保護者が体験活動の必要性を感じている**。

自分の子どもには、今は体験活動よりも勉強を優先させたい

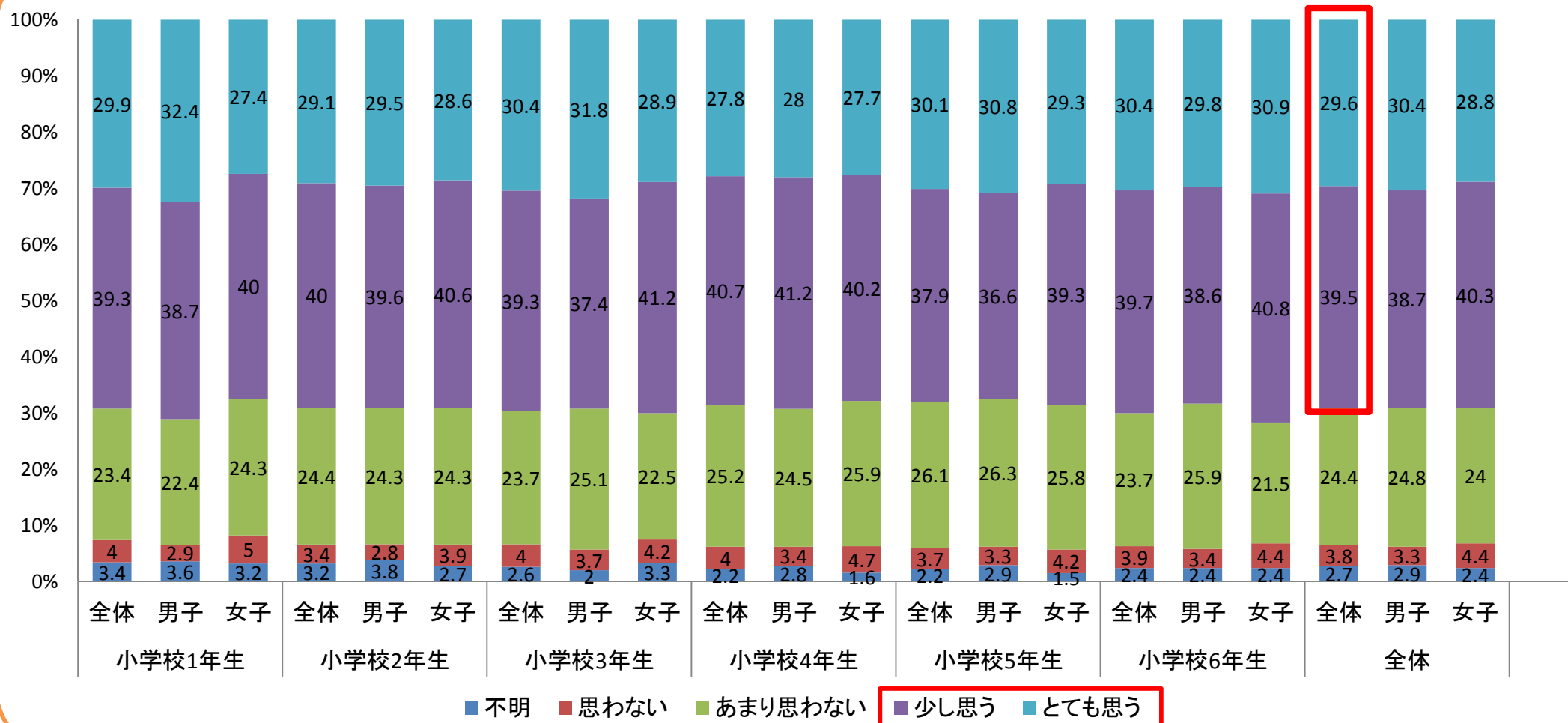


出典) 独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」

体験活動に関する保護者の意識②

7割程度の保護者が、自分が子供の頃と比べると「**現在の子どもたちが体験活動をする機会は少なくなっている**」と感じている。

現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている

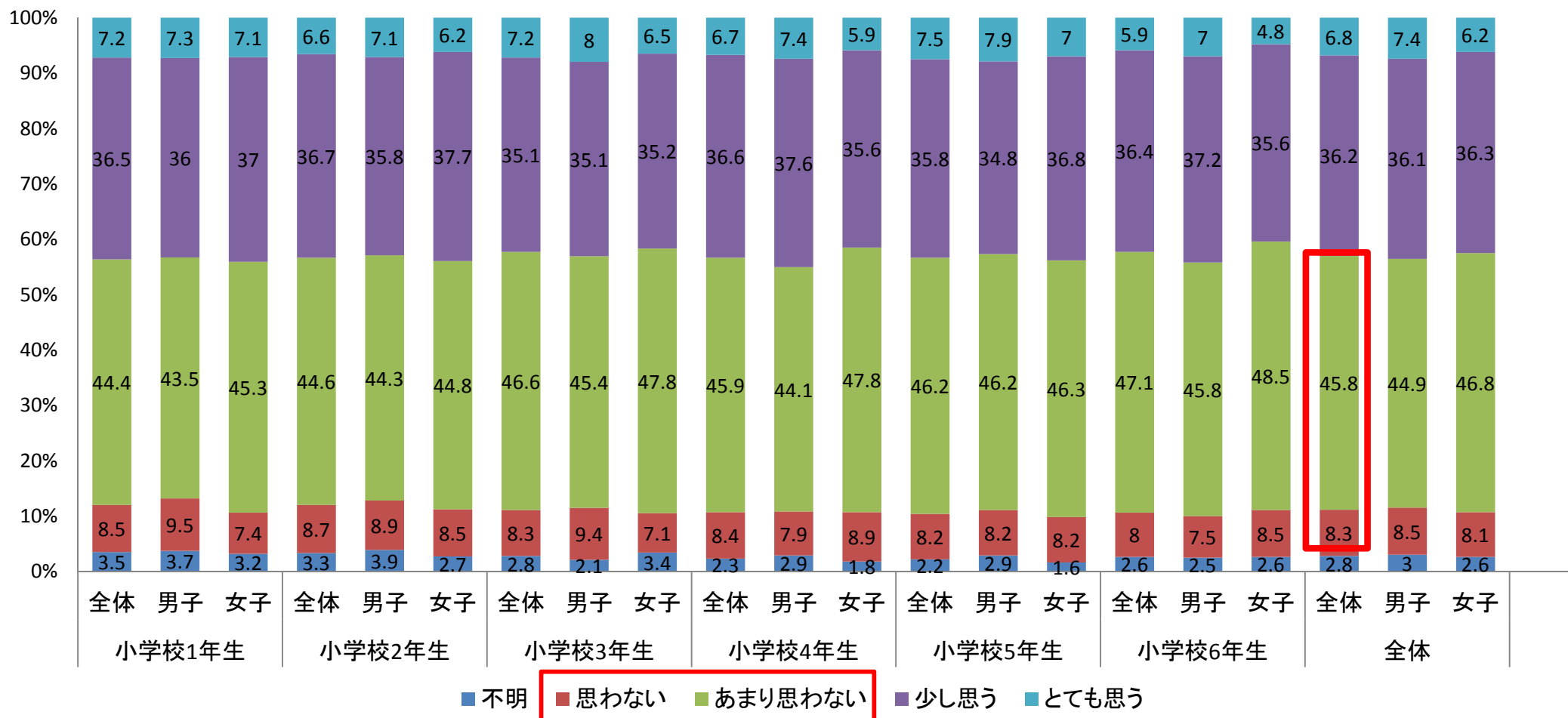


出典)独立行政法人「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」

体験活動に関する保護者の意識③

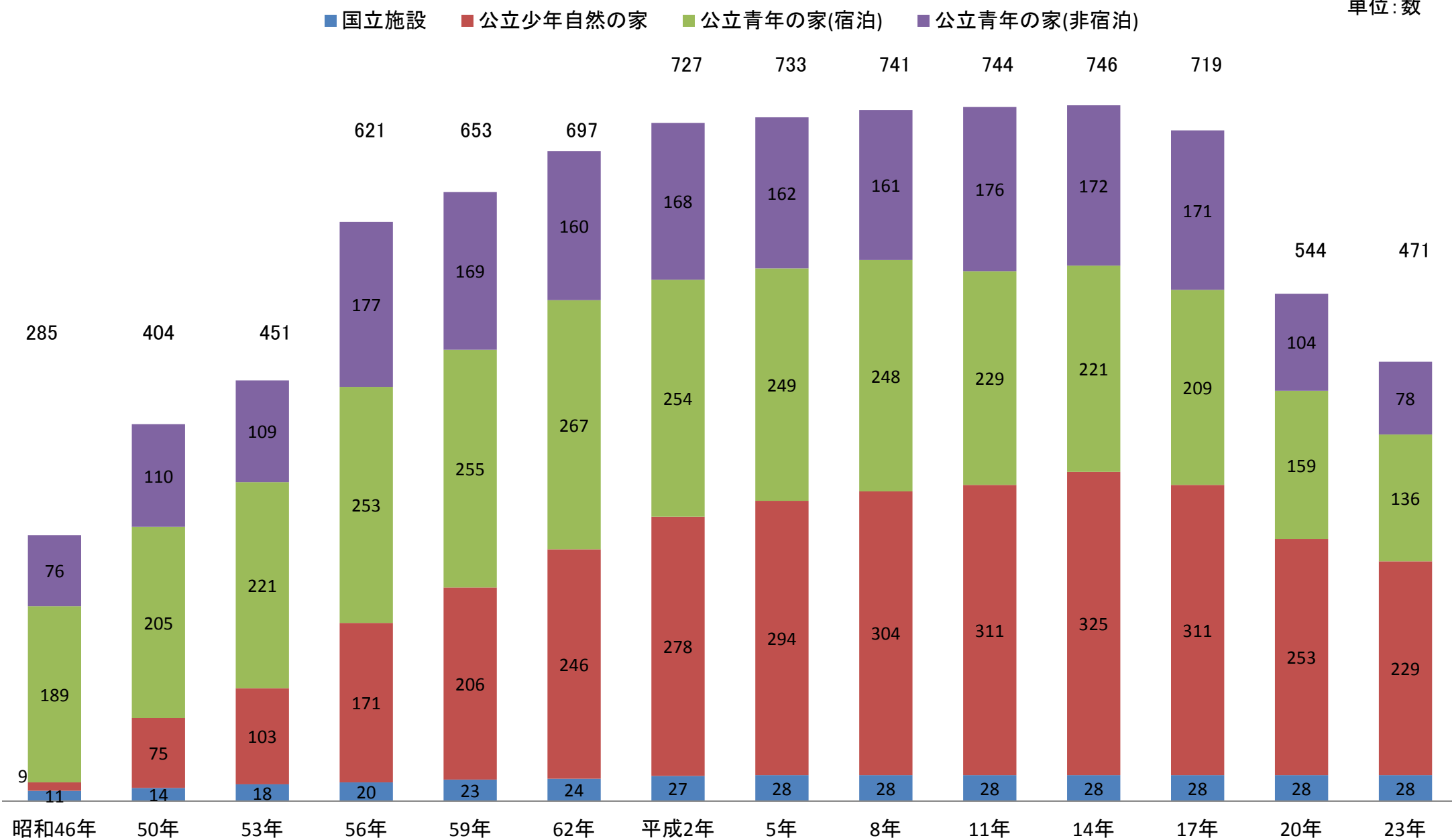
5～6割程度の保護者が「学校の授業や行事以外に子どもたちが体験活動ができる機会が十分でない」と感じている。

学校の授業や行事以外では、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある



【参考】国公立青少年教育施設数の推移

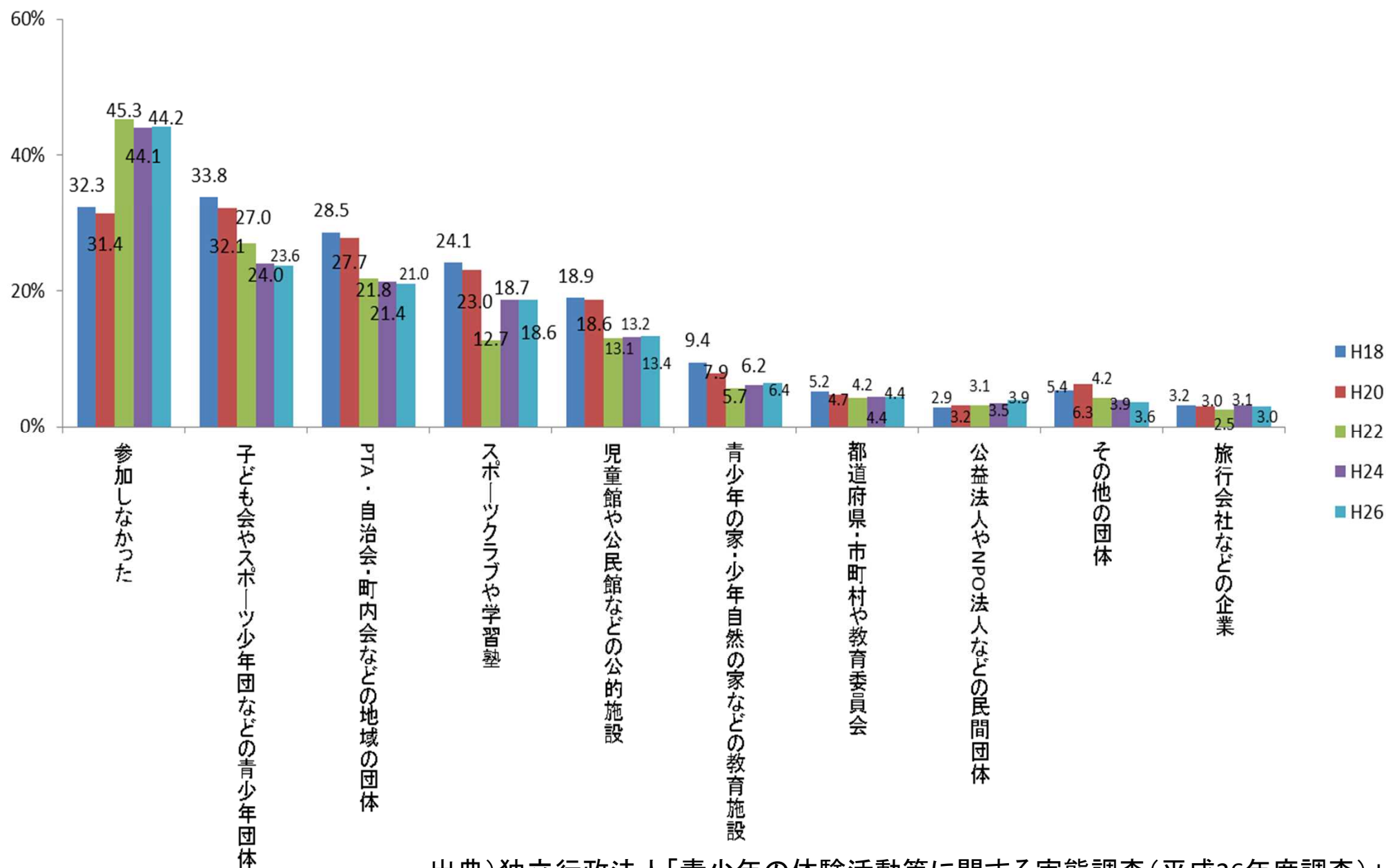
単位：数



出典)文部科学省「平成23年度社会教育調査」(平成25年3月)

【参考】学校外の自然体験活動

学校以外の公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加した子供の割合の推移



出典) 独立行政法人「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)」